

食への消費者の信頼向上に向けて
「フード・コミュニケーション・プロジェクト」
～ 協働による食品事業者の意欲的な取組の活性化～

平成20年6月
農林水産省
消費・安全局

食品事業者の意欲的な取組活性化に向けた環境整備

消費者ニーズが多様化・複雑化するなか、規制による一律義務化や行政による情報提供等の対策のみでは、食に対する消費者の信頼確保には一定の限界 民間活動を重視する新たな政策関与が必要
 食品事業者が、自らの顧客(消費者等)ニーズを見極め、創意工夫を発揮してビジネスを展開することを通じて、食に対する消費者の信頼向上を図ることが効果的

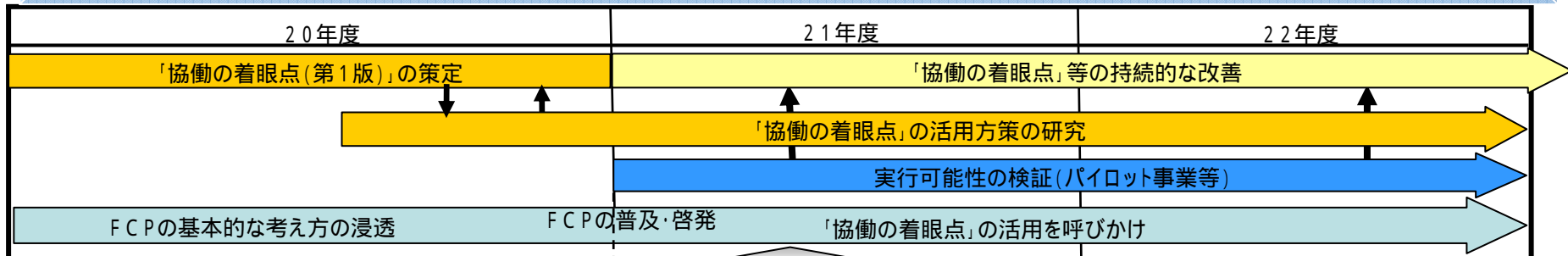
「フード・コミュニケーション・プロジェクト」(FCP)

食品事業者、消費者等の関係者(ステークホルダー)間で、食品事業者の「消費者とのコミュニケーション」「サプライチェーンマネジメント」「衛生管理」等の取組に関する情報が効果的・効率的に流通するよう、項目を標準化し、「協働の着眼点」として共有

ステークホルダーが、「消費者の信頼向上」という目的を共有し、「協働の着眼点」を活用して、食品事業者の意欲的な取組を活性化するための環境整備(食品事業者自らの取組の充実・強化、多様なステークホルダーの購買、投資等による食品事業者支援等の促進)

- FCPは平成20年度から22年度の3カ年で推進予定 -

- ▶平成20年度は、「協働の着眼点(第1版)」を策定、活用方策の研究をスタートし、活用機会拡大の運動のあり方を検討
- ▶平成21、22年度は、多様なステークホルダーの参画により、「協働の着眼点」を実態に即して改善、活用方策の研究を発展させるとともに、広く活用を呼びかける運動を展開



- ✓ FCPの趣旨に賛同するステークホルダーの自主的な参画を得て、民間の知見・活力を活用し「協働の着眼点」策定とその活用方策研究を推進
- ✓ ステークホルダー間では相互に利害が反する場合も多いことを考慮し、検討作業のプロセス等を工夫
- ✓ 「協働の着眼点」は、実効性を重視し、具体例等から帰納的に標準化、随時検証を行い持続的に改善
- ✓ 官民の役割分担を意識。「協働の着眼点」の活用は民間の主体が担い、農林水産省は、多様なステークホルダーが参集する「場」の運営、「協働の着眼点」の策定と改善の推進、それを活用する機運醸成等を担うことを明確化
- ✓ 中小企業を含め、出来る限り多くの食品事業者が、「協働の着眼点」を活用し、自らの取組の充実・強化に取り組めるよう工夫

平成20年度のFCPの具体的な進め方

FCPでは、平成20年度中に以下の状態を目指します。

FCPの基本的な考え方等に賛同する食品事業者等との間で情報共有のためのネットワークを構築し、「協働の着眼点(第1版)」策定作業グループと活用方策研究会への参画を呼びかけ。

消費者の信頼向上のための食品事業者の意欲的な取組を活性化するための「協働の着眼点(第1版)」を策定・公表。

「協働の着眼点」を多様な主体が活用し、食品事業者の意欲的な取組を活性化するための方策を検討する研究会を開催。

FCPの趣旨を広く普及・啓発するために、セミナーの開催やホームページを通して情報発信を展開。

- ネットワークの構築と参画呼びかけ -

- FCPの基本的な考え方へ賛同する企業やその団体(食品事業者等)を対象に自主的な参加を募り、FCPに関する情報を共有するためのネットワークを構築。
- ネットワーク参加者に対して、定期的にFCPの進捗状況を情報提供するとともに、FCPに関する情報を受け付け、意見や提案を募集。
- ネットワーク参加者に対して、「協働の着眼点(第1版)」策定作業グループへの参加や「協働の着眼点」の活用方策に関する研究会への参加を募集。

- 「協働の着眼点(第1版)」策定 -

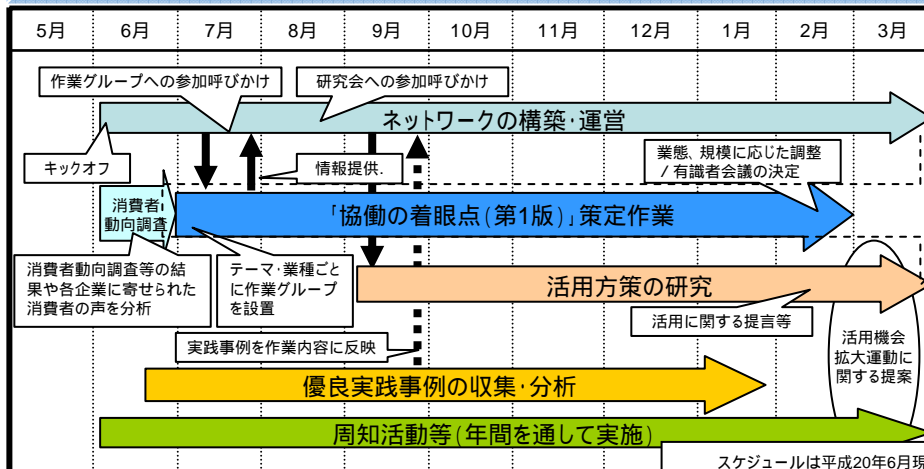
- 食品事業者の取組を見る際に、消費者の信頼向上の観点から着目すべきポイントを標準化。
- 「協働の着眼点」策定の主な作業は、業態別、観点別に作業グループを編成して推進。
- 策定作業は「消費者とのコミュニケーション」「サプライチェーンマネジメント」「衛生管理」等の観点からアプローチ。
- 「業態、企業規模共通でフードチェーンをまたがる大枠」と「食品製造業、食品卸売業、食品小売業等の業態別で、大企業、中小企業向け」をそれぞれ策定。

- 「協働の着眼点」活用方策研究 -

- 「協働の着眼点」を多様な主体が活用し、食品事業者の意欲的な取組を活性化するための方策を検討。
- 研究会は、「セルフアセスメント・コンサルティング」「表彰事業・プロモーション」「資金調達」「企業行動の情報発信」などのテーマ毎に設置予定。
- テーマに即した「協働の着眼点」の活用方策を具体化するとともに、民間活動の活性化の観点からFCP推進や活用方策実現に向けた提言の取りまとめを想定。
- 研究会は21年度以降も「サロン」的ネットワークを拡充、パイロット事業への参加機運を醸成する場として運営。

- FCP年間スケジュール -

ネットワーク立ち上げ 消費者動向調査等実施 優良実践事例等収集・分析
作業グループ編成 活用方策研究会開催 「協働の着眼点(第1版)」取りまとめ
活用機会の拡大運動のあり方検討という展開を想定。



- 「協働の着眼点(第1版)」策定スケジュール -

「協働の着眼点(第1版)」の策定プロセスについては、実態に即したものとするため、消費者動向調査・分析、優良実践事例の収集・分析等を踏まえて、検討作業に食品事業者等が参画。

